

季刊・アナログ

2018
SUMMER
vol. 60

Phile
web

終わりになき「こだわり」を追求

特別ロングインタビュー

NAOKI
(LOVE PSYCHEDELICO)

おかげさまで
60
号



特集

カートリッジ 堪能の奥義

連続企画
注目プレイヤーの「素顔」①テクニクス

レコード収納を
極める - 湿気対策 -

ピットインインタビュー
峰 厚介
(後編)



「Absolute」の名にふさわしい 究極のフォノケーブル

Text by
山之内 正
Tadahshi Yamawuchi
Photo by 田代法生

CRYSTAL CABLE AbsoluteDreamPhono

フォノケーブル
※写真は5PINアングル-XLR
¥1,150,000(1.0m/税別/5PIN-XLR, 5PIN-RCA)
¥2,080,000(1.0m/税別/RCA-RCA, XLR-XLR)

Specifications

●構造:4芯同軸タイプ ●導体:モノクリスタルシルバーコア
●絶縁:カプトン(2層)+PEEK被覆 ●シールド:銀メッキモノ
クリスタル銅+金メッキモノクリスタル単結晶銀の2層シ
ールド ●ケース:透明スリーブ ●RCA-RCA, XI R-XI R,
5PIN-RCAもラインアップ。5PINアングル型とストレート
型を用意 ●取り扱い(結)セファン

カートリッジの出力を 忠実に伝える理想のモデル

オランダのクリスタルケーブルから登場したAbsoluteDreamPhonoは文字通り究極のフォノケーブルと呼ぶにふさわしい注目作だ。単結晶銀のコア導体に加え、シルド材にも銀メッキ単結晶銅と金メッキ単結晶銅という高品位素材を組み合わせていることが最大の特徴で、素材と構造の両面で一切の妥協を排した設計はいかにこのブランドらしい。

単結晶の生成には徹底した環境の管理が不可欠で、じつくり時間をかける必要がある、生産効率の面からは制約が大きい。その半面、歪みや伝送ロスをはじめとするさまざまな音質劣化要因を劇的に抑えることができ、結晶粒界が存在しないメモリットは大きい。特にフォノケーブルの場合には外乱要因の影響を受けやすい微小信号の伝送を担うため、劣化要因を最小に抑えることが音質改善に直結する。単結晶導体の太さは公表されていないが、カプトンを介して高密度に配置されたシルド材との組み合わせが適度な剛性を

生んでいるのか、手に触れたときにケーブルの感觸の良さが伝わり、信頼性の高さがうかがえる。コネクタも含めた全体の質感の高さと仕上げの良さはクリスタルケーブルならではのものです。使用環境への耐性という面からも不安はまったくない。

今回は5PIN DINとXLRを組み合わせたバランス仕様のケーブルを試聴した。まずはオーケストラの各パートを鳴らし分けるセパレーションの高さが他のケーブルと本製品の大きな違いのひとつだ。音の立ち上がり、速く、ティンパニの打音やトロンボーンのアタックなどがきれいに揃う。トゥッティの濁りの響きのなから、ピッコロやフルートのような高温楽器の直線的な音が浸透してくる様子もリアルで力強い。ジャズのライブ録音を聴くと、リズムの刻みに甘さがなく、前向きな乗りの良さがダイレクトに伝わる。クラリネットやサクソに付帯音が乗らず、音色が澄んでいることも特筆すべき利点のひとつだ。カートリッジの出力を忠実に伝えることがフォノケーブルの本質だ。その理想を突き詰めた製品として注目に値する。